

人権啓発センター だより

平成27年9月

No.21



ご挨拶

6月に人権啓発センターの理事長に就任しました。よろしくお願いします。

毎日の新聞などでの、いじめや児童虐待、ハラスメント事件などの報道を見ていると、人権の課題は、今日の社会の中で、ますます幅広い分野に広がり、かつ、複雑さを増してきているのではないかと感じます。

当センターでの県民の皆様に対する人権啓発研修事業についても、企業も含めたより一層の幅広い県民の方々へ向けて、職員が一体となって、これまで以上に様々な関係先や手段によって啓発を進める必要があると考えています。

また、インターネットやSNSなどの発達に伴い、ネットワーク上の暴力やいじめなどの人権侵害が大きな社会問題となっています。

このような新しい社会の変化や動きに、素早く対応し、効果的に啓発を行う方法も、工夫していかなければなりません。

これらに取り組んでいくには、人権に関心のある県民、企業の方や民間も含めた各団体と、事業や活動で、できる限り連携、協力を広げ、人権のネットワークを築いて、対応していく必要があると考えていますので、皆様方のご協力を重ねてよろしくお願いします。

(理事長 西尾)



人権あれこれ

～「人の気持ち分かる」はギフト?～

「0歳児にも思いやりの心」と題する京都大学研究チームの実験記事が、一昨年6月13日付けの産経新聞に掲載されていた。

それによると、生後10ヶ月の赤ちゃん20人に、青い球体と黄色い立方体を「攻撃者」と「攻撃されるもの」に見立て、両者が動き回りながら、一方が攻撃者としてもう一方にぶつかっていく動画を見せ、その後両方の図形の実物模型を目の前に置いてどちらを手にとるかを観察した。すると、20人中16人が攻撃された方の模型をつかんだ。両者がぶつからない動画を見た別の実験群の20人の赤ちゃんには手にとる模型に偏りがみられなかったという内容であった。この、物をつかむなどの接近行為は動物行動学的には同情している態度と考えられているとのこと。

また、大阪大学研究チームの5、6歳児70人を対象とした実験結果も同年8月に発表された。それによると、1人がおもちゃを貸すなどの親切的な行動をとった際、近くにいた他の児童がその児童に対してとる親切的行動は大きく増加するなど、「情けは人のためならず」のことわざを初実証したという。

「人権は人が生まれながらに持っている権利」といわれるが、「人権感覚は人が生まれながらに贈られている資質」といえそうである。こうして、遠い祖先の「共生という営為」から私達に贈られた人権感覚の資質(ギフト)をどのようにして解き放ち活かしていくのかが問われている。

(研修講師 竹村)

じんけんライブラリー

一押し本

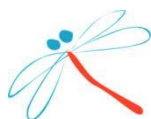
「境界を生きる ー性と生のはざまー」

毎日新聞「境界を生きる」取材班／著 毎日新聞社（1,300円＋税）

男と女、生まれたときに性別は決まっている。そう疑わない社会で、誰にも言えない苦しみを抱える当事者たち。苦悩する医療関係者、そして現実の壁。

思春期時代の生きづらさや、社会に出てからの苦悩、家族とのあつれきなど、わたしたちが知らないところで苦しんでいる当事者の気持ちがよくわかる一冊になっています。

（企画啓発課 佐伯）



ちょっといい話

阪神・淡路大震災で携帯電話も使えない状況の中、被災者と家族や友人を結んだのが、避難所にある掲示板でした。その張り紙の中で、特に目立っていたのが赤い枠で縁どられたものでした。これにはA3判とはがき大があり、上部には「私はここにいます」「We are here」と印刷されていて、西宮や芦屋、神戸の市役所や避難所に置かれていました。これは誰が届けたのか分かりませんでした。そして震災から13年後の2008年、この張り紙の送り主が大手広告代理店、博報堂の関西支社が届けたものだったという事がわかったのです。震災

直後、会社として何ができるかを考え、もっと人に見てもらえる伝言用紙を作ろうと思いついたのです。このアイデアはすぐに実行され、約60万枚の用紙がトラックに積まれ、被災した地域の市役所や避難所に置かれていきました。それは、震災からわずか5日後のことでした。用紙を手配したのが誰かわからなかった理由。それは、この出来事を会社の宣伝に利用したくないと思っていたからだそうです。



（事務局長 福田）



事業報告

スポーツ組織と連携・協力した人権啓発活動事業を開催しました

7月28日（火）高知市総合運動場多目的ドームで、アイゴッソ高知と連携・協力して小学生を対象にした「アイゴッソ高知人権啓発サッカー教室」を開催しました。当日は、48名の参加がありました。

ドーム内では、「考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心」の横断幕や人権ののぼり旗を掲出した中で、低学年と高学年に分かれ、選手から技術指導を受け、その後子どもたちと選手のミニゲームを行いました。

最後には、アイゴッソ高知の選手5名が人権のスピーチを行い、仲間を思いやる気持ち、チームワークの大切さなどを子どもたちに伝えました。また、参加者全員に人権啓発グッズのボールペンなどを配布しました。



参加してくれた子どもたちからは、「楽しかった」「みんなで協力し、相手を思いやる心が大切」「また参加したい」などの声があり、スポーツを通して人権の大切さを実感してもらうことができました。

（企画啓発課 松本）



Information お知らせ

事業・イベント紹介

「子どもの人権サポーターゲーム」を開催します

アイゴッソ高知と連携・協力して、2015 四国サッカーリーグ最終戦において「子どもの人権サポーターゲーム」として冠協賛試合を開催します。これは、いじめ等の身近な人権問題について、県民の皆様が関心を持ち、理解と認識を深めていただくための人権啓発活動の一環として取り組むもので、この他にも、サッカー教室や野球教室も行う予定です。

【冠協賛試合】

- 日 時：平成27年10月4日（日） 午前11時開始
- 試 合：アイゴッソ高知 VS 高知UトラスターFC
- 場 所：スポーツパークさかわ（高岡郡佐川町甲238—1）
- 参 加 料：無料
- 申 込：不要



【サッカー教室】

- 日 時：平成27年9月27日（日） 午後1時受付
- 場 所：宿毛市総合運動公園（宿毛市山奈町芳奈4024）
- 参 加 料：無料
- 申 込 方 法：アイゴッソ高知事務局 TEL050-3504-1728
9月23日（水）締切



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
- ビデオ・DVD
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
- パネル
1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。
※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
(送料は利用者のご負担となります)



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員
270名（机を使用する場合は180名）
- 設備
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>